

## 子育て支援の推進・保育料について

アナ： 「市長が語る 2016 三島」第 10 回の今日は、「子育て支援の推進・保育料」についてお話を伺います。豊岡市長、よろしくお願いします。

市長： よろしく申し上げます。

アナ： 今年度から、子育て支援課内に「子ども子育て応援室」が新設されたと伺いましたが、どのようなねらいがあるのですか。

市長： 人口減少への対応など将来を見据えた施策の発展に向け、若い世代へのきめ細かな子育て支援を一層強化することをねらいとして設置しました。次代を担う子どもたちが健やかに成長できるよう支援の充実を図ることで、三島に住むお父さんお母さんが安心して子育てができる環境づくりを今まで以上に進めていきたいと考えています。

アナ： 子育て支援の充実は、子どもをもつお父さんお母さんが大変期待しているところだと思います。三島市は昨年度、赤ちゃんから中学 3 年生までの入院と通院にかかる医療費の完全無料化に踏み切ったとお聞きしますが、これは子育て中のご家庭にとってはとても嬉しいお知らせですね。

市長： 子どもさんのいるご家庭にとって、経済的な負担はとても大きいものがあります。子ども医療費の無料化につきましては、市民の皆さんから「大変助かっている」との声も多く寄せられていまして、家庭への支援と同時に、子ども自身に対する助成、子どもの命を守るため施策としても大変重要なものと考えています。

アナ： 子ども医療費の無料化は、本当に心強いです。

そして、三島市では、子育て家庭のニーズを捉えたきめ細かな子育て支援事業も展開していると伺っています。

市長： はい。昨年度から始めました「みしまめ育児サポーター派遣事業」は、双子の

お子さんのいるご家庭や2歳未満の<sup>としご</sup>年子のお子さんのいるご家庭に保育士が伺い、お母さんの育児をサポートするものです。まだ小さなお子さんを2人育てるということはとても大変なことです。利用されたお母さんたちには大変喜ばれています。また、県下でいち早く設置した「子育てコンシェルジュ」も、子育て家庭の身近なところで相談に応じ、悩みの解決や子育て支援策の情報をわかりやすくご案内しています。

そして今年度は新たな事業として、転入された子育て家庭に三島の子育て情報を丁寧に紹介しサポートする「ようこそ三島で子育て応援事業」も始めます。

アナ： 三島市が、子どもと子育て家庭を応援していく意気込みが伝わってきますね。

次に、三島市における保育園と幼稚園の保育料について、教えていただけますか。

市長： まず、保育園の保育料ですが、三島市では、子育て中のご家庭の経済的負担を軽減するため、国が定める額から約4割を減額していきまして、県内でもトップクラスの低い保育料となっています。さらに、平成28年度からは、国の定める世帯の年収制限や兄弟の年齢制限を撤廃して、生計を同一にしているご家庭内の、兄弟2人目の保育料を半額、3人目を無料としました。

アナ： お子様がたくさんいるご家庭にとっては大変うれしいサービスですね。幼稚園の保育料はどうでしょうか。

市長： 公立幼稚園の保育料については、国の制度改正がありまして、平成27年度から、世帯の年収に応じた額を保育料とすることになりました。三島市では、その制度の運用に経過措置を設け、平成27年度時点の幼稚園在園児と、その在園児と同年齢の新入園児については、その児童が卒園するまで旧料金に据え置くこととしており、平成28年度の3歳児から新制度による新料金を適用することといたしました。こちらの新料金につきましても、保育園保育料と同様、国の定める額から約4割軽減しております。

アナ： 子育て中の家庭には、保育園や幼稚園の保育料を軽減してもらえるサービスはありがたいですね。

市長： ありがとうございます。

職員から聞きましたが、先日、窓口に見えた県東部の他市から転入されたご家族に、「ご主人の転勤ですか？」と伺ったところ、ご主人は新富士駅から東京まで新幹線通勤をしていたそうですが、通勤に便利なところを探し、三島を選んでくれたそうです。新幹線で東京まで1時間、そして、何よりも、子育て環境がよいことが、決め手だったようで、「三島での子育てがこれから楽しみです」と嬉しい言葉もいただきました。

これからも、このように子育て世代に三島を選んでもらえるまちとなるよう、子どもさんの成長とお父さんお母さんの子育てを応援する取組みをさらに進めていきたいと思っております。

アナ： 豊岡市長、本日はありがとうございました。

市長： ありがとうございました。